

第5回砺波市立学校規模適正化検討委員会からの経過について

1 前回（第5回）の主な意見

- ・小中一貫校にすると人間関係が固定化するため、1学年のクラス数が多いほうがよい
- ・中学生は、大人になるための学校と考えるため、多種多様性の中で揉まれ、社会性を身につける必要があると考える
- ・人口推移を見る限り、小中一貫校にしてもすぐに次の段階にきてしまうため、慎重に判断すべき
- ・多額な費用をかけるため、20年、30年の先を見据えた判断をするべき
- ・統合した場合のスクールバスの運行に関して配慮してほしい
- ・自転車で通学する生徒に対して、通学道路や街灯などの整備も配慮してほしい
- ・既存の学校を利用するのではなく新たな場所で新たな校舎を建ててほしい

2 義務教育学校（小中一貫校）の視察

○9／24 南砺市立南砺つばき学舎(井口小+井口中)生徒数 88 名

○9／30 氷見市立西の杜学園(明和小+速川小+久目小+西部中)生徒数 113 名

【学校の説明内容】

- ・運動会等の機会に1年生から9年生までの異学年の交流をしやすい
- ・校区外からの就学を認めているため、不登校の児童生徒が選んで入学してくる傾向がみられる
- ・中学生の数が増えないので運動部の数が少なく、部員数も少ないため、他校との合同部活動となってしまう（部活動もどんどんなくなっている）
- ・1学級の生徒数が少ないため、その年によって男女比の偏りが顕著である
- ・小規模校のため、教諭の数が少なく、力量不足に陥りやすい

3 般若中学校区及び庄川中学校区への説明会の実施

○10／21 庄川地区自治振興会長連絡会

○10／31 庄東振興協議会

○11／14 梅檀野自治振興会

○11／19 般若自治振興会

○11／20 梅檀山自治振興会

○11／27 庄東地区未来を考える協議会

○11／30 東般若自治振興会

4 市の考え方について

(1) 小学校は継続して存続

(2) 3校統合（庄西中・般若中・庄川中）

ア 登下校時におけるスクールバスの運行

イ 新校舎の整備の検討